

令和7年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

作業療法学科 1年

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

令和7年度

カリキュラム

作業療法学科カリキュラム

分野	教育内容	授業科目	単位 数	単位 時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解 14単位	心 理 学	2	15	30							
		情 報 科 学	1	30	30							
		社 会 学	2	15	30							
		コミュニケーション論演習	1	30	30							
		外 国 語	2	15					30			
		健 康 学	1	30		30						
		作 業 科 学	2	15		30						
		キ ャ リ ア 形 成 学	2	15						30		
		統 計 学	2	15					30			
	基 礎 分 野 合 計		15		120	60	0	0	60	30	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能及び心身の発達 12単位	解 剖 運 動 学 概 論	2	15	30							
		上 肢 解 剖 運 動 学	2	15	30							
		下 肢 体 幹 解 剖 運 動 学	2	15		30						
		解 剖 運 動 学 演 習	1	30		30						
		内 臓 学	1	30	30							
		解 剖 学 実 習	1	30				30				
		生 理 学 I	1	30	30							
		生 理 学 II	1	30		30						
		生 理 学 演 習	1	30			30					
		脳 機 能 解 剖 学	1	30		30						
		人 間 発 達 学	2	15	30							
		小 計	15		150	120	30	30	0	0	0	0
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 14単位	病 理 学	2	15		30						
		臨 床 心 理 学	1	30		30						
		一 般 臨 床 医 学	2	15		30						
		リハビリテーション栄養学・薬理学	2	15			30					
		内 科 学	2	15			30					
		整 形 外 科 学 I	1	30			30					
		整 形 外 科 学 II	1	30				30				
		神 経 病 学 I	1	30			30					
		神 経 病 学 II	1	30				30				
		精 神 医 学	1	30		30						
		老 年 学	1	30				30				
		小 計	15		0	120	120	90	0	0	0	0
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念 4単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30							
		保 健 医 療 福 祉 連 携 論	2	15						30		
		小 計	4		30	0	0	0	0	30	0	0
	専 門 基 礎 分 野 合 計		34		180	240	150	120	0	30	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム

分野	教育内容		単位 数	単位 時間	1年		2年		3年		4年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	基礎作業療法学 5単位	作業療法概論	2	15	30								
		作業療法理論	2	15					30				
		基礎作業学	1	30	30								
		作業治療学実習Ⅰ	1	30		30							
		作業治療学実習Ⅱ	1	30			30						
		作業治療学実習Ⅲ	1	30				30					
		小計	8		60	30	30	0	30	0	0	0	
	作業療法管理学 2単位	作業療法管理学	2	15						30			
		小計	2		0	0	0	0	0	30	0	0	
	作業療法評価学 5単位	作業療法評価学概論	1	30		30							
		運動器作業療法評価学	1	30			30						
		神経筋作業療法評価学	1	30			30						
		作業療法評価応用学	1	30				30					
		画像評価学	1	30					30				
		小計	5		0	30	60	30	30	0	0	0	
		作業療法治療学 19単位	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	30				30				
	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ		1	30					30				
	運動器疾患作業療法学Ⅰ		1	30				30					
	運動器疾患作業療法学Ⅱ		1	30					30				
	内部障害作業療法学		1	30				30					
	発達障害作業療法学Ⅰ		1	30				30					
	発達障害作業療法学Ⅱ		1	30					30				
	精神障害作業療法学概論		1	30			30						
	精神障害作業療法学Ⅰ		1	30				30					
	精神障害作業療法学Ⅱ		1	30					30				
	高齢期作業療法学		1	30					30				
	生活支援学		2	15		30							
	生活支援学演習		1	30			30						
	生活行為向上マネジメント学		2	15					30				
	生活行為向上マネジメント学演習		1	30						30			
	義肢学		1	30			30						
	装具学実習		1	30						30			
	ペーパーペイシェント		1	30						30			
	作業療法研究論Ⅰ		2	15						30			
	作業療法研究論Ⅱ		2	15								30	
	動作分析学		1	30				30					
	パラスポーツ学		1	30								30	
	スキルアップ専攻学Ⅰ		1	30					30				
	スキルアップ専攻学Ⅱ		1	30						30			
	作業療法治療応用学		1	30								30	
	小計		29		0	30	90	180	210	150	0	90	
	地域作業療法学 4単位		地域共生学Ⅰ	1	30	30							
			地域共生学Ⅱ	1	30			30					
			住環境調整学	1	30					30			
		地域作業療法学	1	30					30				
		福祉用具学	1	30					30				
		就労支援学	1	30						30			
		小計	6		30	0	30	0	90	30	0	0	
	臨床実習 22単位	見学実習	1	45		45							
		評価実習Ⅰ	4	45				180					
		評価実習Ⅱ	4	45						180			
		総合臨床実習Ⅰ	8	45							360		
		総合臨床実習Ⅱ	8	45							360		
		小計	25		0	45	0	180	0	180	720	0	
	専門分野合計		75		90	135	210	390	360	360	720	90	
	総合計		124	3405	390	435	360	540	420	450	720	90	

※講義、演習は15～30時間で1単位。実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	東原 義明
授 業 の 概 要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。第1回～第13回は、心理学の基礎について概説し、第14回・第15回は、国家試験過去問題を解いて全体のまとめとするとともに国家試験合格への意識付けを行う。				
授業終了時の到達目標				
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		臨床心理士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	ガイダンス 心理学とは		心理学を学ぶことの目的 心理学の各領域の紹介	
2	知覚		知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境	
3	学習		学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力	
4	動機付け		生理的動機付け、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど	
5	記憶		記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶	
6	発達		発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待	
7	青年		青年期とは、友情と恋愛 アイデンティティの探求、青年期の時間的展望	
8	性格 1		性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因	
9	性格 2		性格検査（質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト）	
10	自己		自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己	
11	家族		家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理	
12	こころの病気と健康		こころの健康性、精神障害 思秋期・青年期の心の病理	
13	社会		対人認知、コミュニケーションと対人行動	
14	まとめ 1		国家試験過去問題の解説（心理テスト、防衛機制など）	
15	まとめ 2		国家試験過去問題の解説（エリクソンの発達課題など）	
教科書・教材			評価基準	評価率
『Crosslink basic リハビリテーション テキスト 心理学・臨床心理学』株式会社 メジカルビュー社			期末試験	100%
				授業内に1度は発言 する機会を設ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報科学		作業療法学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
情報リテラシーや情報モラルの重要性を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報を I T（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。さらにオンライン通信や文献検索の方法を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	臨床心理士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業の復習を行い自習すること。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、ITの説明など		
2	Wordの基礎知識 文字の入力	ミカタイプの使い方、タイピング練習、文字入力の練習と確認、IMEについて		
3	文書の作成	ページ設定、文章を入力、あいさつ文の挿入、記書きの入力		
4	文書の作成	範囲を選択、文字を削除・挿入、文字をコピー・移動、文字の配置、インデント、段落番号、フォントの設定、上書き保存、印刷		
5	文書の編集	均等割り付け、囲い文字、ルビ、文字の効果、書式のコピー・貼り付け、行間、タブとリーダー、段組みの設定		
6	表現力をアップする機能 Excelの基礎知識	テーマを適用、ワードアートを挿入、ワードアートのサイズ変更と移動、画像の挿入、図形を作成、アイコンの挿入、ページ罫線を設定		
7	Excelの基礎知識 データの入力、表の作成	Excelの起動、EXCELのが画面構成、エクセルの表示モード、シートの挿入、切り替え、削除、データの入力、数式の入力と再計算		
8	数式の入力 表の印刷	データの編集、セル範囲を選択、ブックを上書き保存、印刷、オートフィルを利用		
9	表の作成	関数を入力、罫線や塗りつぶし、表示形式、配置、文字の書式、列の幅や行の高さを設定、行を削除・挿入、列の非表示・再表示		
10	PowerPointの基礎知識 基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPointの基礎知識、PowerPointの画面構成、新しいプレゼンテーションを作成、プレースホルダを操作、新しいスライドを挿入など		
11	表の作成 グラフの作成	表の作成、行列を操作、表に書式を設定、名前を付けて保存、グラフの作成、グラフのレイアウトの変更、グラフに書式を設定、グラフのもとになるデータを修正		
12	図形やSmartArtグラフィックの作成 ワードアートの挿入	図形を作成、図形に書式を設定、SmartArtグラフィックを作成、SmartArtグラフィックに書式を設定など		
13	グーグルの機能を使用する	クラスルームやドライブの説明と使用。		
14	文献検索を行う	メディカルオンラインの紹介とキーワードから調べる方法。		
15	特殊効果の設定 プレゼンテーションをサポートする機能	アニメーション、画面の切り替えの効果を設定、印刷レイアウト、スライドを効率的に切り替、スライドショーを実行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よくわかる Word 2021 基礎 (POM出版)		課題・レポート	100%	
よくわかる Excel 2021 基礎				
よくわかる Power Point 2021 基礎				

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	宮地 和樹
授業の概要				
人間の集団としての社会は個々人の集まりであるとともに、それ自体として政治・経済・法や道徳・教育・家族・宗教などさまざまなシステムをもち、相互依存しながら存在している。本授業はそれらの仕組みを明らかにしようとする社会学を学ぶことで、その仕組みを理解するとともに、現在の社会における課題に対し自身の意見を形成することを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
①社会学の基礎的な考え方が理解できる ②各授業でテーマとする社会現象についての基本用語を理解できる ③各授業でテーマとする社会問題に対して自分の意見を表現することができる				
時間外に必要な学修				
毎回の授業で映画の一部分を視聴するので、指定された映画の予告編を視聴してくること。コマシラバスに各授業の参考資料を記載しているので、授業をさらに理解したい人は一読を勧める				
回	テーマ	内 容		
1	社会と社会学	授業全体の概要、社会と社会学の定義・基本的用語の説明を行う。		
2	個人と社会①	個人と社会の関係を、社会学の古典的なテーマである自殺を例にして考える。		
3	個人と社会②	個人と社会の関係を、社会学の古典的なテーマである自殺を例にして考える。		
4	貧困と社会①	貧困と社会の関係を、発展途上国における児童労働をテーマにして考える。		
5	貧困と社会②	貧困と社会の関係を、発展途上国における児童労働をテーマにして考える。		
6	教育と社会①	教育と社会の関係を、教育格差をテーマにして考える。		
7	教育と社会②	教育と社会の関係を、教育格差をテーマにして考える。		
8	学校の社会①	学校における社会を、いじめをテーマにして考える。		
9	学校の社会②	学校における社会を、いじめをテーマにして考える。		
10	社会と家族・女性①	社会と家族の関係を、女性の地位や役割、その変遷をテーマにして考える。		
11	社会と家族・女性②	社会と家族の関係を、女性の地位や役割、その変遷をテーマにして考える。		
12	超高齢社会①	社会における超高齢社会を、日本における超高齢社会をテーマにして考える。		
13	超高齢社会②	社会における超高齢社会を、日本における超高齢社会をテーマにして考える。		
14	ソーシャルメディアと社会①	メディアと社会の関係を、SNSをテーマにして考える。		
15	ソーシャルメディアと社会②	メディアと社会の関係を、SNSをテーマにして考える。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書は使用しない。参考書等はコマシラバスに記載する。		各授業での課題・レポート 最終レポート	70% 30%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
コミュニケーション論演習		作業療法学科／1年	2025／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美	
授 業 の 概 要					
臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。					
授業終了時の到達目標					
・ 基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる ・ 問題解決に向けた行動ができる医療人になる					
実務経験有無		実務経験内容			
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士の経験を活かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修					
社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る					
回	テ ー マ		内 容		
1	オリエンテーション		コミュニケーションとは		
2	ケア・コミュニケーションについて		医療におけるコミュニケーション		
3	自己分析		自己概念、自己肯定感		
4	みる		観察から読みとれる非言語情報、相手に与える印象		
5	きく		傾聴、聴き手のコツ		
6	伝える		アサーティブネス、伝わるコツ		
7	被援助者との関係を築く		好感・信頼感を高めるコミュニケーション 敬意を伝えるコミュニケーション7		
8	被援助者との関係を築く		丁寧語・尊敬語・謙譲語		
9	地域の方とのコミュニケーション		地域の方との交流 企画・運営		
10	地域の方とのコミュニケーション		地域の方との交流 企画・運営		
11	先輩との合同授業		先輩から学ぶ		
12	先輩との合同授業		先輩から学ぶ		
13	留学生から話を聞く 1		留学生の文化を知る ※穴吹グループの留学生と面談のための準備		
14	留学生から話を聞く 2		文化交流・発表		
15	まとめ		社会人・医療人として必要なこととは何か		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・ P T O Tのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版（医学書院） ・ ケア・コミュニケーション（ウイネット）			課題・レポート	100%	到達目標を考えた行動をとる

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようになる。				
授業終了時の到達目標				
健康とは何か、健康を阻害するものについて説明することができる。 健康体操を他者に指導することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や高齢者施設での経験を活かして学生に分かりやすく指導する。			
時間外に必要な学修				
授業中に学んだ専門用語ついて、自身で関係書籍を活用して理解を深める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 健康とは		授業概要の説明 健康とは	
2	身体構造と身体機能 健康診断		循環器系、呼吸器系、消化器系ほか 健康診断の意義と各検査・測定項目	
3	心の健康		精神的健康とは、心の不健康（うつ病、摂食障害、統合失調症など）	
4	遺伝と健康 適応と健康		遺伝の仕組み、遺伝性疾患、肥満・高血圧と遺伝との関係 自律神経系の作用、寒冷や暑熱および高地での適応	
5	環境と健康		温熱や騒音、振動などの環境と健康 COVID-19などの感染症と健康	
6	栄養と健康		五大栄養素の機能 栄養・健康に関する社会的諸問題	
7	運動と健康		運動の効果、トレーニング法と運動処方の実際 運動による障害	
8	生活習慣と健康		生活習慣病、食生活と健康、身体活動と健康、喫煙と健康 アルコールと健康、睡眠と健康	
9	社会と健康 1		健康に生きる権利、公衆衛生対策と健康 医療制度	
10	社会と健康 2		集団と健康、学校と健康、職場と健康	
11	社会と健康 3		経済と健康、法律と健康	
12	科学技術と健康 1		化学物質と健康 情報技術（IT）と健康	
13	科学技術と健康 2		交通機関と健康、自動車事故、自動車運転と健康障害	
14	科学技術と健康 3		住宅と健康	
15	健康体操の紹介と実践 まとめ		健康体操の紹介と実践 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験	100%	分からないことは積極的に質問すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業科学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・ 作業の特性を学び、作業について理解する ・ 人－作業－環境の関係性について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・ 作業の意味や概念について理解し、日常生活場面や作業療法場面に応用することができる ・ 現代社会における作業的公正・不公正について考察を深めることができる ・ 作業療法に求められる作業の力について理解し実践の礎とすることができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設の作業療法実践経験を授業に活かす			
時間外に必要な学修				
日常生活場面の作業について学んだことを活かして考察を深める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	はじめに		作業の力、作業の定義	
2	作業の意味 1		引き起こされる感情、世界のつながり	
3	作業の意味 2		自分らしさ	
4	作業の意味 3		生活の構造化	
5	作業の意味 4		健康との関連性 健康格差	
6	作業の意味 5		社会的意味	
7	作業の意味 6		作業の類型化	
8	作業科学の諸概念 1		作業の視点 作業的存在	
9	作業科学の諸概念 2		作業的公正・作業的不公正 1	
10	作業科学の諸概念 3		作業的公正・作業的不公正 2	
11	作業科学と作業		健康の定義・予防とヘルスプロモーション	
12	作業科学の夢		健康と幸福	
13	作業を取り巻く社会的情勢		性的志向、マイクロアグレッション、他	
14	作業科学の効果 1		OT実践事例 1	
15	作業科学の効果 2 まとめ		OT実践事例 2	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業って何だろう作業科学入門第2版（医歯薬出版株式会社）		課題・レポート	100%	

人体の構造と機能及び 心身の発達

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学概論		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に骨や筋、神経の総論と運動学に必要な知識を学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては正常な人体の構造と概論について学習し、その働きを理解する。また作業療法士として必要な上肢の骨や筋肉の名称を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨牀的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	解剖学、運動学とは 人体の概要	解剖学、運動学の定義などを学習して、どのような内容を学ぶか理解する。		
2	細胞と発生	細胞の構造と機能について学習し、人体の発生について理解を深める。		
3	骨格系の総論	骨の形態や構造、機能について学習する。		
4	骨の形状や名称について	人体の骨の名称や形状についてスケッチなどを行い学習する。		
5	筋の総論	筋組織の構造や機能について学習する。		
6	関節の機能と分類について	関節の基本構造と機能について理解する。関節の種類を軸とその働きから分類し、特徴について理解する。		
7	関節の運動方向	関節の運動方向について理解し、実技を行いながら方向を確認する。		
8	神経の総論	神経系の総論について学習し、上肢の神経や自律神経についても理解する。		
9	血管の総論	血管系の総論について学習し、上肢の血管やリンパ系について理解する。		
10	中枢神経系について①	大脳、小脳、脊髄などの機能的解剖について理解する。		
11	中枢神経系について②	脳神経や大脳皮質の機能局在、伝導路について理解する。		
12	感覚器について	皮膚の構造や視覚器、平衡感覚器、嗅覚期など感覚器の器官の名称と働きについて理解する。		
13	頭部 頸部の解剖と運動	頭部、頸部の解剖学と運動学について理解する。		
14	脊柱、胸郭の解剖と運動	脊柱、胸郭の解剖学と運動学について理解する。		
15	解剖運動学概論のまとめ	解剖運動学概論のまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
上肢解剖運動学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に上肢の関節や運動学について講義をしていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては上肢の関節の構造や筋肉の起始停止などを理解する。また作業療法士として必要な上肢の関節の働きや、筋の作用を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨牀的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	肩関節① 構造と胸鎖関節、肩鎖関節について	肩を構成する骨と関節と理解する。胸鎖関節、肩鎖関節の解剖と運動学について理解する。		
2	肩関節② 肩甲胸郭関節について	肩甲胸郭関節の解剖と肩甲骨の動きについて理解する。		
3	肩関節③ 肩甲上腕関節について	肩甲上腕関節の解剖と運動学について理解する。		
4	肩関節④ 肩の運動について（屈曲・伸展）	肩の動きである屈曲、伸展に作用する筋肉と運動学について理解する。		
5	肩関節⑤ 肩の運動について（外転など）	肩の外転、内転、外旋、内旋などに作用する筋肉と運動学について理解する。		
6	肩関節⑥ 肩の安定化機能について	肩関節の安定化について理解する。		
7	肩関節⑦ 上肢の神経や血管と肩の障害	上肢の血管や腕神経叢などの神経について理解する。 肩に関わる疾患について理解する。		
8	肘関節① 肘関節の解剖	肘関節を構成する骨と関節の分類について理解する。		
9	肘関節② 肘の動きに作用する筋について	肘関節の動きに作用する筋肉について理解する。		
10	肘関節③ 肘関節の運動学	肘関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
11	手関節① 手関節の解剖	手関節に関わる解剖について理解する。		
12	手関節② 手関節の運動学	手関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
13	手指 手指の解剖と運動学	手指に関わる解剖や運動学的な機能について理解する。		
14	上肢の筋の復習	上肢の筋肉の起始、停止、神経支配、作用について復習する。		
15	上肢解剖運動学Ⅱのまとめ	上肢解剖運動学Ⅱのまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受けていく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
下肢体幹解剖運動学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについても解剖学的視点と運動学視点を踏まえて講義を行っていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては下肢の骨や筋肉の作用、関節の分類や運動方向を理解する。特に作業療法士として必要な下肢の解剖と運動学を学び、姿勢や歩行について理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨牀的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	骨盤の解剖と運動学		骨盤の構造と運動について理解する。	
2	股関節① 股関節の解剖		股関節を構成する骨について理解する。	
3	股関節② 股関節の動きに作用する筋肉		股関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。	
4	股関節③ 股関節の運動学		股関節の運動学について理解する。	
5	股関節④ 股関節の疾患と下肢の神経、血管		股関節に関わる疾患と下肢の神経や血管の走行を理解する。	
6	膝関節① 膝関節の解剖		膝関節の解剖について理解する。	
7	膝関節② 膝関節の動きと作用する筋肉		膝関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。	
8	膝関節③ 膝関節の運動学		膝関節の運動学について理解する。	
9	足関節① 足関節の解剖		足関節の解剖について理解する。	
10	足関節② 足関節の運動学		足関節の運動学について理解する。	
11	姿勢と重心①		人体と重心の関りをバイオメカニクスの観点から理解する。	
12	姿勢と重心②		重心と体の動きから寝返り、起居動作、立ち上がりなどの基本動作について理解する。	
13	歩行①		歩行の基礎について運動学的に理解する。	
14	歩行②と下肢解剖運動学のまとめ		歩行の様態や異常歩行について理解する。	
15	下肢の筋の復習と下肢体幹解剖運動学のまとめ		下肢の筋の起始、停止、支配神経、作用について復習する。下肢体幹解剖運動学のまとめを行う。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受けていく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学演習		作業療法学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
解剖学での知識に触診という技術をあわせ体表面上から身体を観察する力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・ 触診の基本がわかる。 ・ 四肢・体幹を構成する骨・靱帯・筋・血管を触診に特定でき、説明できるようにする。 ・ 各部位の異常に関連した障害、疾患名、診察法を挙げることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験 これまでの作業療法の経験を用いて、実際の触診を学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
触診の技術向上筋・神経を覚えることと、次回の予習を行う。				
回	テ ー マ	内 容		
1	体表面解剖学総論 触診の基本	触診の基礎知識となる人体の動きを医学的表現で理解する。触診を行う際の指の当て方、触診時の注意点		
2	骨・関節の触診 肩甲骨・鎖骨・上腕骨	肩甲骨・鎖骨・上腕骨の部分名称、触察		
3	橈骨・尺骨の触診 手根骨について	橈骨・尺骨・手根骨の部分名称、触察		
4	上肢帯における骨触診のまとめ 肩甲上腕関節に関する筋の触診	今までに習った上肢帯での骨触診のおさらい 肩関節内外旋に関わる筋の触察		
5	肩甲上腕間接に関する筋 肩甲胸郭関節に関わる筋	肩甲骨周囲の筋の触察		
6	手関節および手指に関わる筋 肘関節に関わる筋	手関節の運動に関わる筋の触察 肘関節屈曲並びに伸展に関わる筋の触察		
7	手関節および手指に関わる筋②	手指の運動に関わる筋の触察 手内在筋の触察		
8	骨・関節の触診 骨盤・大腿骨・膝関節周辺	骨盤を形成する骨の部分名称・触察 膝蓋骨の触察		
9	骨・関節の触診 足関節および足部周辺	下腿及び側部の骨の部分名称・触察		
10	下肢の靱帯	スカルパ三角関連 膝関節関連 足関節関連		
11	股関節に関わる筋	股関節の運動に関わる筋の触察		
12	膝関節に関わる筋	膝関節の運動に関わる筋の触察		
13	足関節に関わる筋	足関節の運動に関わる筋の触察		
14	体幹―胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織	体幹、脊柱の骨の部分名称・運動に関わる筋の触察		
15	体幹―胸郭・脊柱関連	頸部、背部、腰部の筋の触察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢および下肢・体幹 参考図書：ネッター解剖学カラーリングテキスト		期末試験	100%	授業は実技形式で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内臓学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能の理解を深めるとともに、その異常が生じた際にどのような症状が生じるか、さらには日々の生活にどのような影響が生じるであろうか予測できる基礎的知識とする。				
授業終了時の到達目標				
・ 消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能について他者に説明できる。 ・ 国家試験過去問題の正答率6割以上。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
指定テキスト及び配布資料を読んで予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	内臓学オリエンテーション 消化器系の構造と機能 1		内臓学で何を学ぶのか、成績評価、作業療法における内臓学を学ぶことの重要性、食道と胃の構造と生理	
2	消化器系の構造と機能 2		十二指腸・小腸・大腸の構造と生理 肝臓・膵臓・胆のうの構造と生理	
3	消化器系のまとめと国家試験対策		前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
4	呼吸器系の構造と機能 1		咽頭と喉頭の構造と機能 気管支の構造と機能	
5	呼吸器系の構造と機能 2		肺の構造と機能	
6	呼吸器系のまとめと国家試験対策		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
7	泌尿器系の構造と機能 1		腎臓の構造と機能	
8	泌尿器系の構造と機能 2		尿管、膀胱、尿道の構造と尿の生成	
9	泌尿器系のまとめと国家試験対策		前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
10	生殖器と内分泌系の構造と機能		男性生殖器・女性生殖器の構造と機能 内分泌器官の構造と機能	
11	生殖器と内分泌系のまとめと国家試験対策		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
12	循環器系の構造と機能 1		心臓の構造と機能	
13	循環器系の構造と機能 2		血管の構造と機能 血液の再生と赤血球の構造と機能	
14	循環器系の構造と機能 3 循環器疾患のまとめと国家試験対策		リンパ管の構造と機能 リンパ球の構造と機能	
15	総まとめ		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ ぜんぶわかる人体解剖図 ・ プリント		期末試験 （14回分の習熟度）	100%	授業中、1度は発言する機会を持つ

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅰ		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
神経機能、運動、感覚、内分泌による調節などの高次の生命活動について、個々の役割と機能を理解しそれらが相互に協調して働いていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	生理学とは		授業内容の説明 生命のメカニズム、人体機能の基礎を学ぶ	
2	神経 Ⅰ. 神経系機能一般		神経系の分類、神経系の構造、神経機能一般 錐体路系と錐体外路系	
3	神経 Ⅱ. 中枢神経系		中枢神経系の概要、分類、機能 脊髄の機能、形態、伝導路	
4	神経 Ⅱ. 中枢神経系		大脳、小脳、間脳ならびに脳幹の機能、その他	
5	神経 Ⅲ. 末梢神経系 Ⅳ. 自律神経系		脳神経と脊髄神経 自律神経の分類、調節	
6	筋 Ⅰ. 骨格筋		骨格筋の構造、骨格筋の微細構造、収縮の仕組み	
7	筋 Ⅰ. 骨格筋 Ⅱ. 心筋と平滑筋		筋収縮のタイプ、筋収縮の力学、骨格筋のエネルギー代謝 筋線維、心筋、平滑筋	
8	運動 Ⅰ. 骨格筋の神経支配		運動単位とα運動ニューロン、神経－筋伝達、骨格筋の感覚受容器、筋紡錘とγ運動ニューロン	
9	運動 Ⅱ. 各レベルでの運動調節		伸張反射、姿勢反射、拮抗抑制、I b抑制、脊髄レベルの各反射について	
10	感覚 Ⅰ. 感覚総論 Ⅱ. 体性感覚		感覚受容器と適刺激、感覚の神経経路、刺激と感覚、触圧覚、温度感覚、体の位置や動きの感覚、痛覚	
11	感覚 Ⅲ. 内臓感覚 Ⅳ. 特殊感覚		臓器感覚、内臓痛覚 視覚、聴覚、平衡感覚、味覚と嗅覚	
12	生殖・成長と老化		生殖器の働き、妊娠、成長と老化	
13	体温		産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常など	
14	排泄機能の生理		腎臓と尿産生、排尿・排泄の機構	
15	まとめ		運動生理学Ⅰのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic リハビリ テーションテキスト 生理学 第1版生理学 (メジカルビュー社) ほか		期末試験	100%	復習し理解すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅱ		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
感覚、血液と体液、循環、呼吸、内分泌、消化と吸収などの個々の機能と役割を理解し、運動生理学Ⅰで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	血液 Ⅰ. 血液の組成と一般的性質・機能		血液の組成、機能、一般的（物理的）性質	
2	血液 Ⅱ. 血球 Ⅲ. その他		赤血球、白血球、血小板、止血と血液凝固、血液型	
3	循環 Ⅰ. 循環経路 Ⅱ. 心臓の機能		体循環と肺循環 心臓の特性、心電図	
4	循環 Ⅲ. 血管 Ⅳ. 循環の調節		血管の動き、血液速度と脈拍、血圧、様々な循環調節について	
5	呼吸		外呼吸と内呼吸 呼吸器と呼吸運動	
6	呼吸		肺の換気機能 呼吸器の異常による換気障害	
7	内分泌 ホルモンの種類と作用		ホルモンの種類、作用様式、分泌の調整	
8	内分泌 各内分泌器官とホルモン作用		視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖器、その他	
9	内分泌 各内分泌器官とホルモン作用		視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖器、その他	
10	消化と吸収 口腔と食道、胃における消化		口腔、食道、胃の運動、唾液・胃液の性状と生理作用	
11	消化と吸収 小腸、大腸における消化と吸収		小腸・大腸の運動、膵液、胆汁、小腸、大腸における吸収 腸内細菌など	
12	栄養と代謝		糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
13	栄養と代謝		糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
14	生理学的検査		血圧・脈拍、心電図、血液ガス分析、スパイロメトリー、筋電図、脳波、血液検査など	
15	まとめ		運動生理学Ⅱのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic テーションテキスト 生理学 学（メジカルビュー社）ほか		期末試験	100%	復習し理解すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
脳機能解剖学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
作業療法士として必要な知識である脳の解剖学および機能について体系的に学び、脳の構造や各部位の機能、そしてこれらがどのように運動・感覚、認知機能に関連しているかを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 脳の主要な構造と各部位の名称を正しく理解する。 ・ 脳の各部位が担う機能を説明できる。 ・ 脳の神経回路の働きを概説できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
・ 予習：教科書に目を通しておきましょう。 ・ 復習：配付資料と教科書、動画検索をして知識を定着させよう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	神経系の概観		神経系の構造と機能、神経回路の基礎 中枢神経系と末梢神経系の違い、神経伝達物質	
2	脳の構造（1）		脳の部位と名称 大脳、小脳、脳幹の概観 脳室系と髄液	
3	脳の構造（2）		脳の血管系 脳の保護膜 脳の発生	
4	大脳の構造と機能（1）		大脳皮質の構造 大脳の機能局在（感覚野、運動野、連合野）	
5	大脳の構造と機能（2）		大脳基底核の構造と機能	
6	大脳の構造と機能（3）		大脳辺縁系の構造と機能 言語機能の神経基盤 記憶の神経基盤	
7	間脳		間脳の構造と機能 視床	
8	小脳と脳幹の機能（1）		小脳の構造と機能	
9	小脳と脳幹の機能（2）		脳幹の構造と機能	
10	脳神経（1）		脳神経Ⅰ～Ⅵ	
11	脳神経（2）		脳神経Ⅶ～Ⅻ	
12	視覚と聴覚・平衡感覚		視覚経路 聴覚経路 平衡感覚器と経路	
13	運動		運動経路 運動障害	
14	体性感覚		体性感覚経路 体性感覚障害	
15	まとめ		脳の可塑性 脳の可塑性のメカニズム 神経リハビリテーションの基礎	
教科書・教材		評価基準		評価率
解剖学 第5版（医学書院） 配布資料		期末試験		100.0%
				その他 協力しあって理解を深めよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
発達的一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発達に関係する因子と理論を理解する。 ・ 情緒の発達、社会性の発達、運動の発達等を家族関係、母子相互作用の視点から理解する。 ・ 小児期から老年期までの身体的・心理的発達の特徴と変化を関連付けて説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、実例を挙げながら伝える。			
時間外に必要な学修				
・ 事前に教科書で予習し、配布資料をもとに教科書と照らし合わせながら復習しましょう。 ・ これまでと今後の人生を考えながら、ライフステージの各段階における特徴を学びましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション、発達概念		本講義について 発達の区分、定義、成長曲線、発達の原則、発育曲線	
2	発達理論		エリクソン・ピアジェの発達理論	
3	胎生期から新生児期の発達		胎生期、新生児期の身体・認知の発達について	
4	乳児期の発達		乳児期の身体・認知・社会性の発達について	
5	幼児期から学童期の発達		幼児期前期・後期、学童期の身体・認知・社会性の発達について	
6	遊びの発達		児にとっての遊びについて	
7	青年期から老年期の発達		青年期、成人期、老年期の身体・認知・社会性の発達について	
8	上肢機能の発達		リーチ、握りとつまみ、操作、リリース、目と手の協調性の発達	
9	ADLの発達		食事、排泄、更衣など日常生活動作獲得に至るまでの発達	
10	姿勢反射／反応 1		原始反射、姿勢反射／反応について 脊髄レベル	
11	姿勢反射／反応 2		脳幹レベル	
12	姿勢反射／反応 3		中脳レベル、大脳皮質レベル	
13	運動発達 1		新生児期、乳児期の腹臥位・背臥位	
14	運動発達 2		新生児期、乳児期の座位、立位	
15	発達検査について		発達検査とは？遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、日本版デンバー式発達スクリーニング検査	
教科書・教材		評価基準		評価率
イラストでわかる 人間発達学 （医歯薬出版）		期末試験		100.0%
				その他
				自身の生涯と関連付けよう。

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
病理学とは何か？人類の歴史で疾患の変遷を理解する。主な疾患の病因を理解する。				
授業終了時の到達目標				
疾患の病因に関して外因と内因について説明できる。 臓器毎に主な疾患の病因を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	組織細胞の修復と再生	壊死とアポトーシス、再生、創傷治癒、肉芽組織、骨折、異物処理		
2	循環障害	うっ血、充血、虚血、梗塞（血栓、塞栓）、出血、壊死、ショック		
3	炎症、感染症、免疫機構	炎症とはなにか、感染の成立、感染防御機構、免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患		
4	腫瘍	発癌機序、良性と悪性の鑑別、腫瘍発生の要因、転移（血行性、リンパ行性、播種）、癌の疫学		
5	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常症、単一遺伝子病、遺伝子診断、先天異常の病因		
6	代謝異常	糖尿病（Ⅰ型、Ⅱ型）、高脂血症、痛風、黄疸、アミロイドーシス、糖原病		
7	循環器と呼吸器の疾患	虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、肺癌、肺炎、間質性肺炎、結核、気管支喘息		
8	消化器の疾患	食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎、ウイルス肝炎、肝癌、肝硬変、膵癌、胆石症		
9	内分泌系の疾患	下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、橋本病、甲状腺癌、クッシング病、アジソン病、		
10	造血期の疾患	貧血の分類、白血病の分類、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病		
11	泌尿器・生殖器の疾患	急性糸球体腎炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳癌		
12	運動器、皮膚の疾患	骨折、関節リウマチ、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、軟部腫瘍、皮膚の感染症、皮膚腫瘍		
13	脳・神経系の疾患	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病、脱髄疾患、感染症		
14	炎症の経時的変化について	組織や細胞の壊死、充血		
15	感染症について	感染症 ウイルス 細菌		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(医学書院)		期末試験	100%	テキストをよく読み内容を理解すること

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	福田 琴
授業の概要				
- 臨床心理分野の疾患の理解。 - 各疾患の治療法を学ぶ。 - 自分たちの職種が出来る範囲のを知る。				
授業終了時の到達目標				
- 臨床心理分野の疾患を理解する。 - 各疾患の治療法を理解する。 - 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1（不安障害）	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2（身体表現性障害）	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3（解離性障害） 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC（回避性パーソナリティ障害など）		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん、睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学（医学書院）		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、救命救急医療をはじめ、外科など代表的な疾患の概要・症状・治療について習得する。				
授業終了時の到達目標				
救命救急医療について理解すると共に命の尊さを学ぶ。 授業で紹介する代表的な疾患の理解を深め、解剖運動学や運動生理学など基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 救命救急医療について		授業概要の説明⇒一般臨床医学は何を学ぶのか、成績評価 心肺蘇生法⇒一次救命処置	
2	ショックについて		ショックについて 一般症状、種類、治療	
3	救命救急処置 1		救命救急処置（一次救命処置）の説明	
4	救命救急処置 2		救命救急処置（一次救命処置）の実技練習 1	
5	救命救急処置 3		救命救急処置（一次救命処置）の実技練習 2 と確認テスト	
6	外科総論		機械的損傷と非機械的損傷について	
7	感染性疾患と末梢血行障害について		感染成立のための3因子、病原微生物の種類 感染症の種類、代表的な感染症疾患、末梢血行障害	
8	腫瘍と臓器移植および免疫について		腫瘍：良性腫瘍と悪性腫瘍 臓器移植、免疫について	
9	免疫について		免疫：体液性免疫、細胞性免疫 抗原抗体反応（アレルギー）	
10	皮膚疾患について 1		皮膚の構造、皮疹の特徴 湿疹・皮膚炎、皮膚薬について	
11	皮膚疾患について 2		代表的な皮膚疾患の症状とその原因および治療法 皮膚感染症、動物寄生虫による疾患、物理的皮膚障害	
12	性感染症について		性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、梅毒、淋菌感染症の症状と治療法	
13	受精・出産に関する知識の習得		受精と出産	
14	耳鼻咽喉科疾患		代表的な耳鼻咽喉科疾患における症状や治療法	
15	眼科疾患について		白内障やぶどう膜炎など眼科疾患の診断・症状・治療法	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 内科学（メジカルビュー社） プリント配布		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
精神医学の基礎について学び、作業療法業務に役立てる。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立てる。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明することができる。 定期試験6割以上の正答。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 精神医学とは		授業概要の説明、精神医学とは、精神障害にかかわる概念、精神障害の分類、理学療法との関連事項	
2	認知症 1		アルツハイマー病の病態、診断、治療 レビー小体型認知症の病態、診断、治療	
3	認知症 2		前頭側頭型認知症（ピック病）の病態、診断、治療 認知症の国家試験過去問題を解く	
4	アルコール依存症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
5	統合失調症およびその関連障害		統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態、治療、自己臭恐怖の病態	
6	うつ病		うつ病の病態、診断、治療	
7	双極性障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
8	パニック症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
9	適応障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
10	摂食障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
11	睡眠障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
12	境界性パーソナリティ障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
13	自閉症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
14	てんかん		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
15	総まとめ		総まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床につながる精神医学（医歯薬出版）		期末試験 （14回分の習熟度）	100%	毎回、授業の終わりに質問時間を設ける

保健医療福祉と リハビリテーションの理念

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
・リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。 ・多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。 ・他職種連携、チームアプローチの重要性を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
事前学習（教科書を読む）の励行				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	・授業概要 ・リハビリテーションという言葉と定義 ほか		
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	・医学的リハビリテーションの対象 ・障がい者・障がい児の実態 ほか		
3	障害の階層とアプローチ	・ICFについて ・病気と障害の相違 ほか		
4	リハビリテーション評価学	・障害の評価 ・身体所見 ほか		
5	リハビリテーション治療学	・心理的アプローチ ・廃用症候群 ほか		
6	ライフステージにおける障害特性 高齢者のリハビリテーション	・ライフサイクル、障害児の特性 ほか ・サルコペニアとフレイル、老年症候群 ほか		
7	脳損傷のリハビリテーション	・脳卒中、脳外傷、低酸素脳症との比較		
8	脊髄損傷のリハビリテーション	・脊髄損傷の原因と損傷のタイプ ・機能障害と活動制限およびそれらへのアプローチ		
9	神経筋疾患のリハビリテーション	・パーキンソン病、SCD、MSなどのリハビリテーション		
10	運動器疾患のリハビリテーション	・変形性関節症や関節リウマチなどのリハビリテーション		
11	呼吸器疾患のリハビリテーション 心血管系のリハビリテーション	・肺炎、慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション ・心不全、虚血性心疾患のリハビリテーション		
12	肢体不自由児のリハビリテーション 発達障害のリハビリテーション	・脳性麻痺、筋ジストロフィー ほか ・自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害 ほか		
13	がんのリハビリテーション 災害医療とリハビリテーション	・がんのリハビリテーションの特徴 ほか ・被災者に接する7つのポイント ほか		
14	精神障害のリハビリテーション	・うつ病など精神障害の基礎事項 ・精神障害のリハビリテーションの概要		
15	まとめ	・知識整理 ・国家試験問題演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
学生のためのリハビリテーション医学概論（医歯薬出版）		期末試験 （14回分の習熟度）	100%	授業で聞いた語句の意味を復習する

基礎作業療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
・ 作業療法に対する理解を深める。 ・ 作業療法士に求められる役割を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 作業療法の範囲について説明をすることができる。 ・ 作業療法士の役割、作業療法の流れ、業務について説明できる。 ・ 作業療法士に対する魅力が深まり、今後への動機づけとつなげていく。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法実践経験を活かし、作業療法の魅力を説明する。			
時間外に必要な学修				
次回の授業範囲について、教科書を読んで予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	作業とは①	1、作業と作業療法 2、生活を構成する作業活動 3、作業療法の定義		
2	作業とは②	4、課題 5、発表		
3	作業療法の領域①	1、作業療法の対象 2、作業療法の領域		
4	作業療法の領域②	3、作業療法の実践の流れ 4、作業療法の実施場所		
5	障害体験①	1、片麻痺者を想定したADL・IADLの実施		
6	障害体験②	2、グループワーク 3、発表		
7	作業療法の歴史・理論①	1、日本の歴史 2、世界の歴史		
8	作業療法の歴史・理論②	3、各国の状況 4、代表的な作業療法の理論について		
9	作業療法の法と倫理	1、理学療法士および作業療法士法 2、日本作業療法士協会倫理綱領		
10	多職種連携によるチームアプローチ	1、専門職チームの意味と意義 2、チームのタイプと特徴 3、組織の連携		
11	作業療法の実践課程①	1、目的 2、実践課程 3、評価と問題点の抽出		
12	作業療法の実践課程②	4、ICFモデル 5、治療・指導・援助計画の立案・フォローアップ		
13	各領域における作業療法実践課程①	1、身体機能分野 2、精神機能分野		
14	各領域における作業療法実践課程②	3、発達過程分野 4、高齢期分野 グループワーク・講義		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学概論（医学書院）		期末試験 （14回分の習熟度）	100%	グループワークを含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
作業に関する基礎理論と分析を学び、体験学習も加え指導方法を検討していく。				
授業終了時の到達目標				
・ 作業遂行に関心をもち、身辺処理－生産活動－余暇を連続したながれで考えられるようになる ・ 作業療法の魅力が高まること				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
作業への関心をもつ。与えられた課題をこなす。				
回	テ ー マ	内 容		
1	作業・作業活動	基礎作業学とは 作業の意味・特徴・作業活動 作業の障がい		
2	障がいとは	作業の分類とOTのかかわりかた 健康と作業 脳と作業活動との関係		
3	道具と作業の関係	人が作業をすることの効果 作業療法の症例紹介		
4	作業活動に伴う効用	効用の理解		
5	作業分析 1	分析とは 実際の作業を用いながら行う		
6	作業分析 2	実際の作業（ADL）を用いながら動作分析		
7	作業分析 3	実際の作業（手芸）を用いながらOT視点での分析		
8	作業分析 4	実際の作業（手芸）を用いながらOT視点での分析		
9	作業分析 5	実際の作業（遊び）を用いながらOT視点での分析		
10	作業をどのようにもちいるか 1	作業をどのようにもちいるか 障がいとの関係		
11	作業をどのようにもちいるか 2	効果的な学習条件		
12	指導法 1	指導法		
13	指導法 2	伝え伝わり かかわりのコツ		
14	作業の治療的応用	症例提示し作業訓練の紹介		
15	症例検討	治療としての意味を考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 作業－その治療的応用（協同医書出版） ・ ひとと作業（三輪書店） ほか		課題・レポート	100%	グループ活動含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業治療学実習Ⅰ		作業療法学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
作業療法で用いられるアクティビティを体験するといった自身の五感を通した学びから、作業活動が身心に影響することを学ぶ。また様々な情動に素直に向き合う。				
授業終了時の到達目標				
・ 作品を最後まで完成させる ・ 実習を通して、心身に与える影響を述べることができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
実習種目に関して使用される材料、道具、手順、リスク管理などをあらかじめ把握しておくこと 理解できたこと、できなかったことを整理し、理解できなかったことは質問すること				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 切り絵		流れの説明 作業活動実践	
2	切り絵		作業活動実践 包括的作業活動分析	
3	紙粘土		作業活動実践 包括的作業活動分析	
4	リリアン 1		作業活動実践	
5	リリアン 2		作業活動実践	
6	リリアン 3		作業活動実践	
7	リリアン 4		包括的作業活動分析	
8	アンデルセン 1		作業活動実践	
9	アンデルセン 2		作業活動実践	
10	アンデルセン 3		作業活動実践	
11	アンデルセン 4		包括的作業活動分析	
12	地域の高齢者との実践 1		OT塾での活動準備	
13	地域の高齢者との実践 2		OT塾での実践	
14	軽作業活動分析		季節ごとのカレンダー作製	
15	軽作業活動分析		季節ごとのカレンダー作製	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 適時配布 ・ 作業―その治療的応用 改訂第2版（協同医書出版）		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

作業療法評価学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学概論		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
作業療法の中で行われる評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解する。評価の手段である面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する。また、関節可動域測定の概念や目的を理解し、測定の実技を習得する。				
授業終了時の到達目標				
作業療法がどのような流れで行われているか理解し、作業療法評価の目的を説明できる。評価に必要な面接や観察の目的と意義を理解する。意識障害やバイタル測定、関節可動域訓練の概要を学び、正確に行える技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、臨床場面に必要な評価について指導する			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。確認の実技テストも行うので実技練習も取り組んでおく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業療法における評価とは		作業療法における評価の目的と意義	
2	作業療法評価における情報収集		評価に必要な情報収集の目的や意義、情報収集する内容を理解する	
3	作業療法評価における面接とは		面接を行う目的と面接の実技について	
4	作業療法評価における観察とは		観察を行う目的を理解する 日常生活動作を観察し、問題点を考察する	
5	意識障害の評価		意識障害の評価の目的と意義について	
6	バイタルの評価と測定		バイタル測定を行う目的と意義	
7	関節可動域測定（ROM）の概要		関節可動域制限の定義と分類について 関節可動域制限の生じるメカニズムについて	
8	ROM測定の実技①		ROM測定における検査方法と注意点 肩関節のROM測定実技	
9	ROM測定の実技②		肩関節・肘関節のROM測定実技	
10	ROM測定の実技③		前腕・手関節・手指関節のROM測定実技	
11	ROM測定の実技④		股関節・膝関節・足関節のROM測定実技	
12	ROM測定の実技⑤		肩甲帯、体幹のROM測定実技	
13	ROM測定の実技⑥		ROM測定のまとめ	
14	面接の再復習		実習に向けて目的を持った面接ができるよう再復習する MTDLPの生活行為聞き取りシートを用いて面接練習を行う	
15	観察の再復習と記録について 評価のまとめ		評価に必要な観察の再復習を行う 評価から目標設定、治療プログラムの流れを理解する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第2版（医学書院） 新・徒手筋力検査第10版（協同医書出版）		期末試験	100%	講義内容によっては実技を行う

作業療法治療学

作成者: 谷 渕 加奈子

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援学		作業療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・生活行為に関係する人―作業―環境の理解を深める ・生活行為に求められる評価を評価学と関連付けて学んでいく				
授業終了時の到達目標				
・生活行為における動きの特徴やバリエーションを理解する ・生活行為における対象者を観察する視点を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の予習復習。自身の生活行為に注意を向け、他者との違いを考察する				
回	テ ー マ	内 容		
1	生活行為について	ADLの分類・概念		
2	ADLを構成する基本動作 1	姿勢（臥位・座位・立位）と環境、観察の視点		
3	ADLを構成する基本動作 2	寝返り～起き上がりと環境、観察の視点		
4	ADLを構成する基本動作 3	起立・着座と環境		
5	ADL 1	食事の工程と観察		
6	ADL 2	整容の工程と観察		
7	ADL 3	更衣の工程と観察		
8	ADL 4	排泄の工程と観察 課題①		
9	ADL 5	入浴の工程と観察 課題②		
10	IADL 1	IADLとは 洗濯、掃除、整理整頓 課題③		
11	IADL 2	調理、買い物		
12	IADL 3	経済管理、外出		
13	余暇活動	余暇活動に関連する作業、評価 QOLとは		
14	睡眠と生活習慣	睡眠 生活習慣の特徴、評価、作業バランス		
15	各領域におけるADL	身障、精神、発達、高齢期領域におけるADL まとめと試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学ゴールドマスターテキストADL（メジカルビュー）、他		期末試験 課題	85% 15%	課題提出期限遅れは採点の対象とならない

地域作業療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域共生学Ⅰ		作業療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
・ 地域における社会資源やコミュニティ活動の概要・必要性を学ぶ ・ 自身の地域に関心をよせ、地域の特徴を理解する ・ 作業療法士として必要な地域との関わりは何か、考える				
授業終了時の到達目標				
・ 地域のコミュニティ活動について理解し、作業療法士の役割を考察できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 地域で実践した臨床経験を活かし、授業を実施する			
時間外に必要な学修				
・ 自身の居住地域のコミュニティ活動について必要な情報収集、参加を通して理解を深める ・ 国際的視野を持ち、価値観の違いについて理解するため、TVやWeb等の情報に注意を向ける				
回	テ ー マ		内 容	
1	地域コミュニティの概要 1		・ 地域とは ・ コミュニティセンターとは ・ 地域における自助と互助の役割	
2	地域コミュニティの概要 2		・ 各地域におけるコミュニティセンターの活動	
3	自分の地域を知る 1		自分が居住している地域のコミュニティについて調べる	
4	自分の地域を知る 2		まとめと発表	
5	コミュニティセンターの方から話を聞く		・ 地域におけるコミュニティセンターの役割 ・ 取り組み事例 課題①	
6	地域の社会資源を活用する 1		模擬事例を通して、地域の社会資源の活用プランを考える	
7	地域の社会資源を活用する 2		まとめと発表 課題②	
8	地域高齢者との交流 1		準備	
9	地域高齢者との交流 1		実施	
10	地域高齢者との交流 2		振り返りと準備	
11	地域高齢者との交流 2		実施	
12	地域課題について考える 1		地域を取り巻く課題について調べる	
13	地域課題について考える 2		地域を取り巻く課題について調べる	
14	地域課題について考える 3		発表	
15	まとめ		定期試験に向けて	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
配布資料		期末試験 レポート		80% 課題提出期限の遅れは採点の対象とならない 20%

臨床実習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
見学実習		作業療法学科／1年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位（45時間）	必須	馬場 広志
実 習 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。				
実習内容				
第1学年後期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。可能な限りMTDLPのシートなどを活用しながら面接などを体験する。				
1. 実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 可能な限りMTDLPの「生活行為聞き取りシート」などを使用して対象様と面接を行う。				
5) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと